

AFACT 会議報告

2012年11月17日～11月23日

テヘラン（イラン）

報告者：SIPS 事務局長 菅又 久直

I. 会議日程：

- 11月17日（土） 東京発
- 11月18日（日） テヘラン着
- 11月19日（月） AFACT 技術手法委員会（TMC）会議
- 11月20日（火） AFACT 運営委員会（StC）会議
- 11月21日（水） AFACT 総会
- 11月22日（木） EDICOM、テヘラン発
- 11月23日（金） 東京着

II. 会議参加の目的：

アジア各国で協力して、効率的で相互運用性のあるグローバルサプライチェーンのための情報基盤を構築することを目指して、アジア各国の代表と技術的・手続的課題を審議するためにAFACT会議（技術手法委員会、運営委員会、総会）に参加した。

また、主催国イランの要請により EDICOM（AFACT 会議に継続して開催される EDI 普及セミナー）にて講演を行った。

- ◇ AFACT（アジア太平洋貿易手続簡易化と電子ビジネス促進センター）：国連 CEFACT が開発した貿易円滑化と電子ビジネスに関する国際標準等の普及を図るために、国連 CEFACT アジア地区ラポーターと連携して活動する非営利の団体で、現在アジアの 19 カ国・経済圏が参加している。

なお、今回の一連のイベントは、イラン政府の後援の下にイラン電子商取引開発センター（Iran Center for eCommerce Development）がスポンサーを務めた。

III. AFACT 会議総括：

AFACT は、1 年毎に異なるメンバー国が議長国となり、運営委員会と総会の 2 回のイベントを主催する。2012 年はイランが議長国（2010 年：日本、2011 年：台湾）で、本年 5 月のキッシュにおける運営委員会につづき、今回のテヘランにおける総会が開催された。

今回の会議には、日本（小生を含め、4 名）、韓国、台湾、タイ、イラン、パキスタン、ベトナムの 7 カ国が参加した。

小生（SIPS 事務局長：菅又久直）は、技術手法委員会（TMC）、運営委員会（StC）および総会に参加した。

2013年度はベトナムが主催国となり、4月にダナンにて運営会議、11月にホーチミンシティにて総会が予定されている。

IV. AFACT 技術手法 (TMC) 委員会会議：

TMC 委員会には、4カ国（台湾、イラン、日本、韓国）から9名が参加した。今回は、国連 CEFACT 技術動向、コア構成要素ライブラリ（CCL）の活用、および SOA 相互運用性ガイドの3テーマにつき審議された。

(1) 国連 CEFACT 技術動向

本年9月の国連 CEFACT フォーラムの手法・技術 PDA にて議論になった技術テーマにつき、小生が説明を行った。カバーしたテーマは次の通り。

・ビジネス文書ヘッダー (BDH&E)

日本、デンマーク、ノールウェイ、オーストラリアの賛同により、正式プロジェクトとなった。

・相互運用性基盤コア・ライブラリ (CIFL)

国連 CEFACT にて CIFL を開発・保守し、領域ごとの標準は CIFL を基準に当該標準団体（WCO、SWIFT、GS1、OAGI など）が開発を進めることを提案。

当提案は、国連 CEFACT のプロジェクトとしては未だ認められていない。

・オープン・データ交換フレームワーク (ODIF)

ISO TC154 のプロジェクトであり、国連 CEFACT の手法・技術 PDA が参加している。当プロジェクトより、EDI 関係の技術関係仕様（UMM、CCTS、NDR など）は TC154 が担当し、国連 CEFACT は技術関係仕様に基づく意味情報関連の開発保守を担当すべきとの技術報告ドラフトが提案された。

・信頼性のある取引文書交換

当件は、国連 CEFACT 内で勧告制定プロジェクトとしての発足が提案されている。

9月の国連 CEFACT フォーラムでは、次の5テーマが議論された。

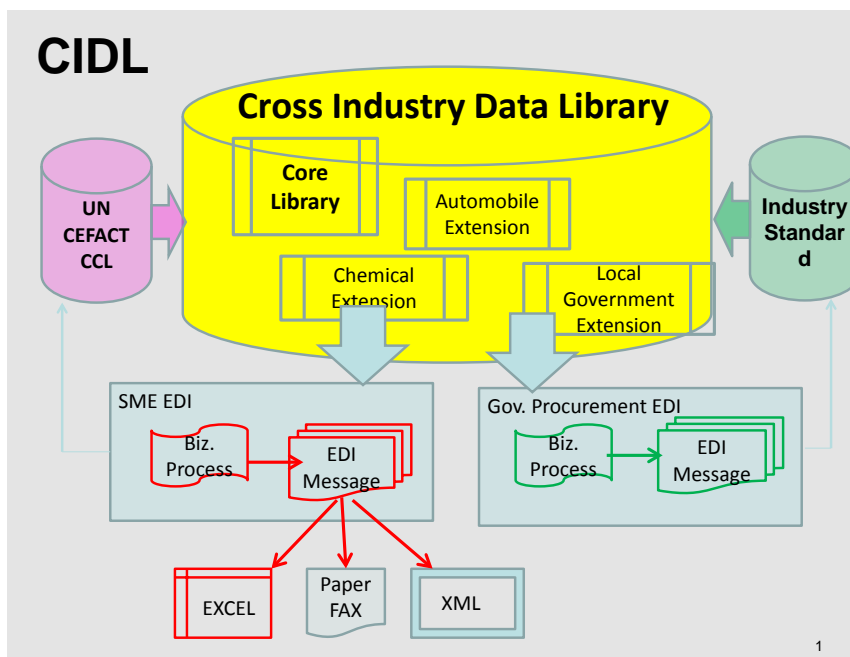
- 電子貿易文書交換における信頼性
- 署名以外の取引文書の認証
- 2国間における電子交換データの認証（4 Corner Model）
- 電子文書の長期署名プロファイル
- 認証電子メールアドレス（#Mail：韓国提案）

(2) コア構成要素ライブラリ (CCL) の活用

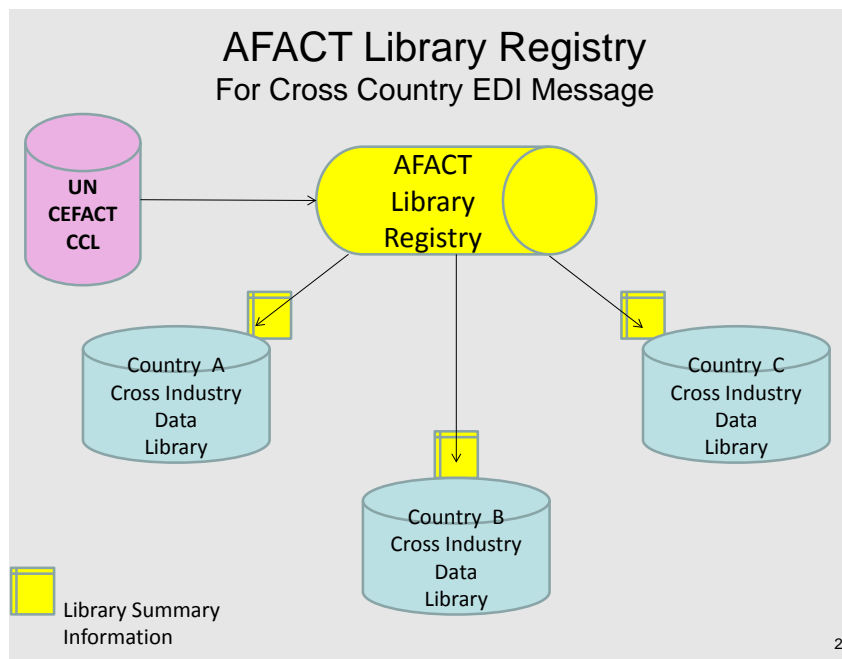
AFACT メンバー国では、日本、韓国、台湾が自国語の CCL を整備している。

前述の国連 CEFACT の状況（CIFL、ODIF）を鑑み、アジアにおける CCL ローカライゼーション体制の必要性が認識された。当件につき、小生より日本における業界横断 EDI

フレームワークの試み（図一）を紹介するとともに、将来における AFACT ライブラリ登録簿（図二）の提案を行った。



図一 日本における業界横断データ辞書の試み



図二 AFACT ライブラリ登録簿の提案

なお、源提案の Cross Industry EDI Library は、議論の結果 Cross Industry Data Library (CIDL) と呼ぶこととした。

(3) SOA 相互運用性ガイド

韓国では、政府用の SOA フレームワーク&設計ガイドラインを策定した。韓国における試みを AFACT にも適用することにつき審議を行った。

AFACT の SOA フレームワーク&設計ガイドラインには次の項目が含まれよう。

- 相互運用性 SOA フレームワーク
- ビジネスコンポーネントの設計法
- サービスコンポーネントの設計法 (Identifiable、Interoperable、Reusable)
- サービスコンポーネントのレジストリ

なお、韓国代表から、AFACT メンバーが当該プロジェクトに積極的に参加する意向があれば、政府用の SOA フレームワーク&設計ガイドライン (韓国語) を英訳する用意があるとの提案が行われた。

(4) 活動合意事項 (Action Plan)

- ① 日本が CIDL の日本版ガイドライン (ビジネスインフラ・ガイドブック V2 に相当) を次回 AFACT 技術手法委員会 (2013 年 4 月予定) までに作成 (英文) し、それにより AFACT メンバーはアジア地域ライブラリ作成プロジェクトを進めるか否かを検討する。

→SIPS 国際/業界横断 EDI TF にてガイドライン策定予定。

- ② AFACT の各メンバーは、韓国が説明した政府用の SOA フレームワーク&設計ガイドライン概要につき検討し、AFACT の SOA フレームワーク&設計ガイドライン策定プロジェクトに参加するか否かを回答する。

→SIPS メッセージング基盤 TF に検討を依頼する予定。

V. AFACT 運営委員会 (StC) :

AFACT 運営委員会には、6ヶ国 (イラン、台湾、日本、韓国、タイ、パキスタン) が参加し、活動状況および活動計画につき、次の審議が行われた。

(1) AFACT 活動報告

AFACT 事務局 (イラン) より次の報告が行われた。

- ・ AFACT 運営委員の交代 (日本: 石垣 充、イラン: Jafar Mahmood) 。
- ・ 国連 CEFACT アジア地域レポート (タイ: Ajin) および国連 CEFACT 副議長 (インド: Tahseen Khan) の当該国における部門の移動があり、国連 CEFACT および AFACT への参加が困難になった。いずれも国連 CEFACT が任命するポジションであり、AFACT は国連 CEFACT における選任手続きに間に合うよう候補者を提案する必要がある。
- ・ AFACT の 2014 年および 2015 年の主催国が未定。

- ・ AFACT ビジネス領域委員会 (BDC) の委員長未定。
- ・ AFACT の国連経済社会理事会による NGO 認定は後 2 年待つ必要がある。関連して AFACT 規約の改訂も行う予定。
- ・ ISO TC154 および UNCTAD JMA に AFACT 代表が正式リエゾンとして参加可能になった。台湾の Mei-Li Chen が AFACT 代表として参加。
- ・ AFACT 事務局より、国連 ESCAP における決議 68/3 (アジア太平洋域内の持続可能な貿易手続簡易化のための、電子取引と国境を越えた電子データ/電子文書の認証の実現) に基づく電子取引と国境を越えた電子データ/電子文書の認証の実現) に関わる地域協定 (Regional Arrangement) の審議状況につき報告が行われた。
- ・ AFACT 事務局より、コロンボで開催された ROC-TF (The Regional Organizations Cooperation Mechanism for Trade Facilitation) について報告がおこなわれた。ROC-TF 会議は、アジア地域の Trade Facilitation を推進する各イニシャチブ (ESCAP、ADB、WB、WCO、ECO (注)、AFACT など) の相互協力を図るための情報交換を目的に開催された。

(2) AFACT 委員会および作業グループ報告

技術手法委員会、電子原産地証明 WG、旅行レジャーWG より報告が行われた。

- ・ 技術手法委員会：上記「IV AFACT 技術手法委員会 (TMC) 会議報告」参照。
- ・ 電子原産地証明 WG: イラン/パキスタン間の実証プロジェクトが進められている。またベトナムも、技術的な協力を賛同。また ECO (注) メンバー間の協力も推進しており、イラン/トルコとの実証プロジェクトも進めている。
- ・ 旅行レジャーWG：旅館情報プロジェクト (SLH: Small Scale Lodging House) の標準化が完了し、その実証を進めているところ。また新たに DTI (Destination Travel Information) プロジェクトが国連 CEFACT プロジェクトとして仮認定された。当プロジェクトには、日本、韓国、タイが参加予定であり、イランも参加考慮中である。

(3) 韓国 #メールサービスの紹介

韓国より、メールアドレス認証付きのメール (#メール) サービスの紹介が行われた。韓国においては、#メールサービスの認定を NIPA (韓国情報通信産業振興院) が行う。当ビジネスは、電子文書保管 (アーカイブ) サービスにつぐ NIPA の二本柱となる。

VI. AFACT 総会：

AFACT 総会には、7ヶ国（イラン、台湾、日本、韓国、タイ、パキスタン、ベトナム）が参加し、国別報告（AFACT 2012 Annual Report 参照）の他、主に前日の運営会議の決定事項の承認を行った。

なお、AFACT 総会にて審議された新たな事項は次の通り。

- 2014年 AFACT：ベトナムが主催国で、4月にダナンで運営会議、11月にホーチミンシティで総会を開催する。
- 2014年の AFACT 主催国候補は、カンボジャ、タイ、パキスタンとし、いずれも不可の場合は台湾が引き受ける。
- 2015年の AFACT 主催国について、候補が決まらない場合はイランが引き受ける。
- 国連 CEFACT アジア・ラポーターの改選は 2013年6月の国連 CEFACT 総会で行われる可能性があり、各国は早急にラポーター候補を検討する必要がある。
- ビジネス領域委員会(BDC)委員長に韓国の **Jasmine Jang** が候補としてあげられた。
- 韓国より #メールサービス対象のプロジェクト提案が行われた。正式の提案文書は、後日、技術手法委員会 (TMC) に提出される。
- 国連 ESCAP よりオブザーバーで参加した **Sang Won Lim** に、国連 ESCAP より AFACT 運営委員会への委員派遣要請を行った。
- イランより、国連 CEFACT 勧告 36号（シングルウィンドウ相互運用性：ドラフト）への修正要求を ECO (注) にて検討中であり、修正要求がまとまり次第 AFACT のレビュー後、国連 CEFACT の関係 PDA に提出する予定との報告が行われた。

(注) ECO(Economic Cooperation Organization)：1985年に発足、イランを中心とした地域経済・社会共同体で、地域の経済・技術・文化向上を目的としている。エネルギー、貿易、運輸、農業等をターゲットにしており、シングルウィンドウの構築と電子ビジネスの促進も重要な課題の一つになっている。加盟国は、イランとその周辺の10カ国（イラン、キルギスタン、アゼルバイジャン、トルコ、パキスタン、アフガニスタン、カザフスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン）である。

VII. EDICOM：

AFACT に続き、アジア地域への EDI 普及を目的としたセミナー(EDICOM)が開催された。参加者は、AFACT 出席者と地元テヘランの政府機関・関係団体および IT ベンダーが主体。EDICOM での講演は次の通り。

Sang Won Lim (UN/ESCAP)：シングルウィンドウについて

菅又久直 (日本：SIPS)：相互運用性のためのコア構成要素

平井一海 (日本：ゲスト)：日本における貿易手続簡易化

Don Lee (韓国：KTNET)：韓国のシングルウィンドウ構築

Sarayut Chaisuriya (タイ：カセサット大学)：電子政府における相互運用性

Luca Castellani (UNCITRAL)：シングルウィンドウの法的側面

Jafar Mahmoodi（イラン：電子商取引開発センター）：イラン電子商取引開発センターの活動

小生は、「For Semantic Interoperability」と題して、次の内容の講演を行った。

- ・ セマンティック・インターオペラビリティとは
- ・ 共通セマンティック辞書
- ・ コア構成要素技術仕様概要
- ・ データ・モデリング概要
- ・ メッセージ構築法
- ・ 世界共通辞書と業界別辞書

テヘランは、アルボルズ山脈の麓にあり反対側は砂漠で、山脈を越えるとカスピ海がある。11月の気候はほぼ東京と同じで違和感がない。現在イランは西欧諸国からの経済制裁を受けてマクロ的にはかなり困窮していると思われるが、街は車で溢れかえり、日常生活へのインパクトは見えてこない（多分、ガマン強いのでしょう）。国際問題さえ解決すれば、経済的にも文化的にも大きなポテンシャルがある国と思う。



以上